

# 第5章 計画の評価

## 5-1 推進に向けた取組

本計画は、2018（平成30）年から2030年までの13年間を計画期間としていますが、これまで長い時間をかけてつくられてきた都市の規模・構造を、今後の人口減少や高齢社会に対応した都市構造へと移行しようとするものであることから、その実現に向けては、さらに長期的な取組が必要になるものと考えられます。

このため、本計画で掲げた施策や人口密度の状況については、概ね5年毎に実施される都市計画基礎調査や国勢調査などの調査結果を活用しながら定期的に検証するものとし、必要に応じて適宜、計画の見直しを図ることとします。

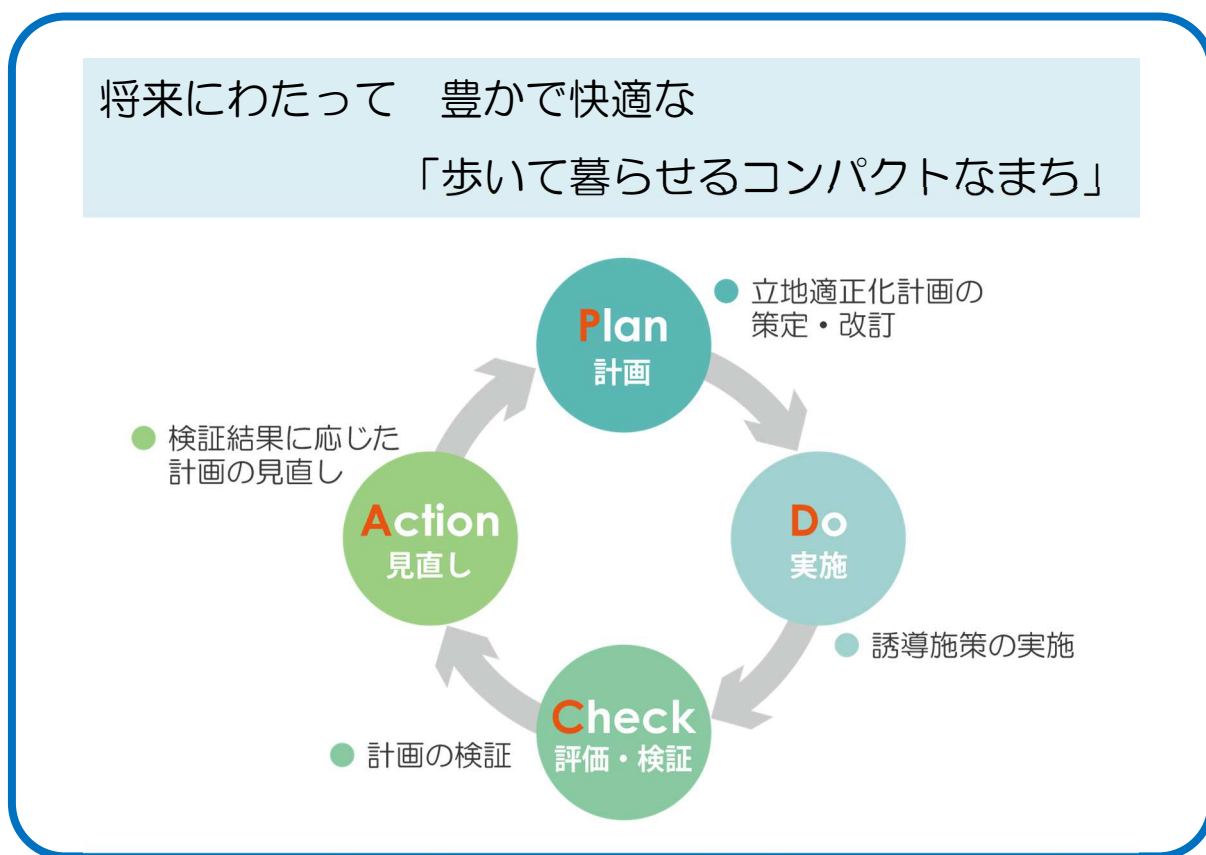


図 5-1 立地適正化計画の推進に向けた取組

## 5-2 評価指標と目標値

本計画の策定による効果を客観的かつ定量的に把握し、検証するための評価指標と目標値を定めます。評価指標については、①都市機能誘導、②居住誘導、③公共交通の区分ごとに定めます。

### ■居住誘導に関する目標値

評価指標	計画策定時点 2015年（平成27年）	現状 2020年（令和2年）	目標値
			2030年
居住誘導区域内 の人口密度	56人/ha	53人/ha	45人/ha

※ 2040年の居住誘導区域内の推計人口密度は34人/haで、これを市街化区域の編入基準である40人/haとすることを将来目標としたうえで、2030年の目標値については、計画策定時点（2015年：56人/ha）と将来目標（2040年：40人/ha）の線形補間を基に設定しました。

### ■都市機能誘導に関する目標値

評価指標	計画策定時点 2017年（平成29年）	現状 2023年（令和5年）	目標値
			2030年
都市機能誘導区域内 における 誘導施設の立地割合	88.6% (31/35)	91.4% (32/35)	100%

※ 誘導施設の立地割合については、「都市機能誘導区域ごとに立地している誘導施設の種類の数の合計/都市機能誘導区域ごとに設定した誘導施設の種類の数の合計」としました。

### ■公共交通ネットワークに関する目標値

本計画における公共交通ネットワークに関する評価指標、目標値、目標年次については、「函館市地域公共交通計画」に掲げるものと同様とします。

No	評価指標	現状値	目標値
指標①	公共交通利用者数の減少率と人口減少率の差	公共交通利用者数の減少率 >人口減少率	公共交通利用者数の減少率 ≤人口減少率 (令和10(2028)年度)
指標②	乗合バス事業 経常収支率	67.6% (令和元(2019)年度)	75% (令和10(2028)年度)
指標③	主要交通結節点 利用者数	5,224人/日 (令和3(2021)年度)	5,750人/日 (令和10(2028)年度)
指標④	公共交通利用者の 満足度	22% (令和4(2022)年度)	30% (令和10(2028)年度)
指標⑤	公共交通ドライバーの 確保に向けたイベント の参加人数	—	30人/回 (令和6(2024)~10(2028)年度)

出典：函館市地域公共交通計画